



SANJO ROTARY CLUB

三條ロータリークラブ

週報 No. 13

2010.10.6 (No.2610)

第2560地区ガバナー／東山 昕也  
会長／樺山 仁  
会長エレクト／山田 富義 (クラブ奉仕A)  
副会長／杉山 幸英 (クラブ奉仕B)  
幹事／明田川 賢一  
S A A／若槻八十彦  
会計／松永 一義

例会日／毎週水曜日 12:30～  
例会場及び事務局／  
三條市旭町2-5-10 三條信用金庫本店内  
例会場／TEL 34-3311  
事務局／TEL 35-3477 FAX 32-7095

E-mail : sanjo-rc@cpost.plala.or.jp  
http://www.soho-net.ne.jp/~rotary/  
(“はshiftを押しながら“へ”のキーを押してください)

■本日の出席会員数:54名中32名  
■先々週出席率:84.62%

【先週のメイクアップ】

[9.21] 三條北RCへ

- ・五十嵐浩さん、石橋育於さん
- ・五十嵐晋三さん、渡辺良一さん
- ・藤田紘一さん、小越憲泰さん
- ・熊倉昌平さん

[9.24] 吉田RCへ

- ・加藤紋次郎さん、斎藤弘文さん

[9.25] 糸魚川RC創立50周年式典へ

- ・樺山 仁さん、明田川賢一さん
- ・杉山幸英さん、高橋 司さん
- ・山田富義さん

[9.26] ライラ研修(新発田)へ

- ・成田秀雄さん

[9.27] 三條南RCへ

- ・平原信行さん、熊倉昌平さん

[10.2] 加茂RC創立50周年式典へ

- ・樺山 仁さん、会田二郎さん
- ・明田川賢一さん、石橋育於さん
- ・荻根澤隆雄さん、杉山幸英さん
- ・西山徳芳さん、平原信行さん
- ・松永一義さん、山田富義さん

(10名)

[10.2] 米山委員長セミナー(上越)へ

- ・浅野金治さん

[10.4] 三條南RCへ

- ・斎藤弘文さん



BUILDING COMMUNITIES  
BRIDGING CONTINENTS

「地域を育み、大陸をつなぐ」

2010～2011年度国際ロータリーのテーマ

「金木犀」



会長挨拶

樺山 仁 会長



御挨拶致します。

三條の中心を流れる五十嵐川の河川改修に絶大な尽力を頂いた、松尾与十郎氏の記念碑が新しく移設され、本日除幕式と祝賀会が現時間に行なわれ、当クラブの代表として、社会奉仕事業の一環として、社会奉仕委員長の野崎さんに御出席願いました。

7.13水害の河川改修もほぼ終了し、やっと市民生活も楽々とした感があり、これもひとえに松尾氏の功績であります。我々市民も大いに感謝しなければと思います。

今日は、敬老の日は過ぎましたが、日本の長寿について考えて見たいと思います。

日本は世界屈指の長寿国であります。

2009年末の統計によりますと、平均寿命が延びて女性が86.5才、男性が79.6才と最高記録を40年続けて、過去最高を更新しました。心身共に健康で、世界のトップクラスを維持しております。社会の色々な所で、多くの元気なお年寄りが活躍しておるのも、戦後65年経った今、生活のレベルが上がったのもさる事ながら、環境や医療の急激な進歩により生活出来ているのが本音ですが、戦争に巻き込まれず、時をあくせく生活しなくても生きる事が出来るからであろうと思われま



# 幹事報告

明田川賢一 幹事

日本の国内では、長野県が全国一の長寿県であります。信州長野の人が長寿になろうとして長寿を意識していたのではなく、日々の暮らしを考え、つづがなく日々の暮らしを考え、衣食住に注意しながら、「暮らしの知恵」に従って生活して来たからに他なりません。

長野の県民性について、NHK放送文化研究所の調査によりますと、

- ①理屈っぽい ②まじめ ③頑固 ④世話好き  
⑤議論好き ⑥努力家 ⑦向学心が強い

を上げております。

信州人は「学ぶ」と言う気質が強く、自我を育て、しっかりとした意思を持つ人間が多いので、その反面として理屈っぽく頑固で、議論好きとどうつるのも当たり前だと思います。

なぜ信州人がトップの長寿を維持しているか、生活して行く上で、生活の知恵に優れたものがあり、総じて他県より一歩だけ優れたものがあって、それが長寿に結びついたものであろうと言われております。

長寿を実現した要因は、暮らしの知恵の累積と地道な継続努力の結果であり、もともと持っていた信州の気風、考える「学ぶ心」にあったと言われ、教育水準の高さにあると言えます。

信州の教育水準は、幕末の頃から他県にもまして優れたものがあつた様です。

幕末の信州の寺小屋の数は1,341校で、日本の普及率（全国の8.5%）、幕末の成人男子の6割が、読み書きそろばんが出来るとあります。（大日本教育資料調べ）

小藩11の中に、武士の子弟を教育する藩校があつたと言われます。

松代藩の文武学校、高遠藩の進徳館等是有名で、明治5年に明治政府による学制発布（学校制度の改革）があり、明治9年に開校した開智学校（松本市）は和洋折衷の洋風学校で、現在国の重要文化財となつて、又佐久市の中込学校も重要文化財となつています。

明治8年、全国の就学率（6才～14才）が35%に対して、長野は72%、明治33年には87.8%、明治34年には94%と、完全就学に近くなつて、長野県が誇り得る最大の遺産となつたのでした。

信州における教育水準の高さは、群を抜いていた様です。

そんな信州人が生活の知恵を衣食住に取り入れながら、現在がある訳でございます。

長寿は永い努力の結晶の証と思います。

今日は敬老の日に合わせて、長寿がなぜ可能かと言う事について考えて見ました。

挨拶を終ります。

◎地区国際奉仕委員会より、「2011～12年度 一年交換学生募集のお願い」が届いております。

派遣先 アメリカ、ドイツ、ブラジル、タイ 他  
資格 15～19歳（出発時高校在学中の者）、  
学業成績が中位以上の者 等

申込締切 10月末日 11月中旬選考試験（予定）

派遣時期 2011年8月下旬出発、受入（予定）

募集人数 5名

◎地区ライラ委員会より、「第10回ライラ研修会参加・協力御礼」が届いております。

◎次々週20日（水）は、職業奉仕月間『職場例会』です。

と き 10月20日（水） PM12:30 開会点鐘

**※PM12:00 三条市役所前 出発のバスを用意致します。**

と ころ 株高儀（新潟市西蒲区大原374-1

TEL.0256-70-5100）

※出欠を回覧致します。バス利用の有無についてもお知らせください。

## ニコニコBOX

樺山 仁さん

すっかり秋めいてきました。10月～11月は行事が多くあります。よろしく御協力願います。

成田会員の卓話に期待して。

小出子恵出さん

2～3日に木曾御嶽山にいつものメンバーで登って来ました。紅葉が8合目まで下りて来ていました。

加茂RC周年会欠席してすみません。

中村和彦さん

先日、友人と「御嶽山」へ登山に行つて来ました。

お釜の廻りは素晴らしい紅葉でした。

佐野勝榮さん

10/2・3、久々に山登りして来ました。木曾の御嶽山です。運動不足の為、バテました。だけど、紅葉がきれいでしたよ。

荻根澤隆雄さん

昨年斎藤さんから植栽していただいた金木犀キンモクセイが良い香りを放っています。

成田さん、今日のご苦労様です。

成田秀雄さん

10月3日からの土日で、須原高原へ行つてまいりました。茶臼岳の紅葉が始まっていて、キレイでした。

平原信行さん

加茂RC50周年に参加させていただきました。又、明田川幹事、ありがとうございました。

熊倉昌平さん、明田川賢一さん、会田二郎さん、

小越憲泰さん、松永一義さん、高橋 司さん、

船越正夫さん、五十嵐浩さん、歸山 肇さん



成田秀雄会員、卓話ありがとうございます。  
楽しみにしております。

10月6日分      ¥17,000  
今年度累計      ¥339,000

## 卓 話

### 「第10回 ライラ研修報告」

新世代奉仕委員長 成田秀雄 会員



今年のライラ研修は先月25日、26日の土・日で敬和学園大学を会場に開催されました。

ライラはご存じのように、ロータリー青少年指導者育成プログラムでありまして、英語名称の Rotary Youth Leadership Award から頭文字を取ってRYLAと名づけられております。

今年レイ・クリンギンスミス国際ロータリー会長は青少年プログラムの支援を強調項目の最優先項目に取り上げ、この5月の規定審議会においては7月から、新世代奉仕が第5奉仕部門に加えられました。

また当地区の東山ガバナーは地区テーマを「友絆」地域とともに掲げ、それにちなみ今回の研修テーマは「世界との友絆」地域の未来を担う若人の集いとされました。

今井新世代奉仕委員長は今回のライラ研修の意義について、「我々ロータリーの綱領には、知り合いを広めることによって奉仕をはじめよう」とあります。現代の若者には仕事以外に遊びの（空間が、時間が、仲間が）無いと言われます。この3つの（間）とは（かかわり）であり人間関係が希薄になっている事が起因していると思われまます。今回、ライラ研修という共同生活を通して、2日間という短い期間ではありますが、出会いを大切に、その（かかわり）が友絆となり地域にそして職場における指導力養成の一助となるような、有意義な機会にさせていただきたい。」と述べられました。

実際今回は、「世界との友絆」と言うだけあって、研修生も国際色豊かな顔ぶれがそろったようです。これは敬和学園の生徒さん達や留学生の参加が大きかったように思います。

私は今回、ライラ研修に参加して、今回で4回目ですが、毎回思うのですが、研修ではほとんど初対面のメンバーが揃い、チームを組んで研修を始めます。最初はよそよそしいのですが、研修が進むうちにどんどん仲良くなっていきます。研修が終了するころにはニックネームで呼び合い、竹馬の友であるかのような雰囲気になります。私は一つの共通課題に対して、一生懸命考え、意見を戦わし、その交わりと

ころを結論としてまとめあげ、発表する。この達成感の共有がコミュニケーションを深めるうえで、言い換えればお互いの「友絆」深めるために如何に有効かということを再認識しました。この関係が良い方向で長く続いてくれればなと心から思います。

3年くらい前まではライラ研修は巻の青少年研修センターとか、五頭山青年の家等、自然の中で行われ、2泊3日の日程で行われていました。クーラーもなかったので暑いし、夜は得体のしれない虫が部屋のなかを飛んでるし、山は登るし、足長蜂とか野生の獣に襲われないように等との注意があったりして、若者はさておき、私のような日頃運動不足な人間にとってはかなりキツイ研修でした。

ところが一昨年のライラは研修場所が新潟の学生プラザ「STEP」です。ここはもともとホテルだったので冷房完備の会場で日程も短縮され1泊2日の座学中心の研修となりました。昨年も確か「STEP」だったように思います。今年の研修会場は敬和学園大学、私は仕事の都合で二日目から参加しましたので、実際に泊ってはおりませんが、宿泊は月岡温泉ホテル清風苑です。また、今回ロータリアンは父兄参観の父兄のような立場で、実際の研修には参加しないで各グループの研修会場を見て回るような役割でした。今回は初日に12キロウォークと言った野外活動型の研修もあったのですが、ロータリアンは参加しないで宿泊施設で研修生が戻るのを待っていたようです。

これが、良いとか悪いとかはここで話すつもりはありませんが、参加ロータリアンにとってかなり身体的に楽な研修となったのは事実のようです。

また私が感じる良かった点としまして、各グループがそれぞれ別の教室に分かれて、一つのテーマに対し研修活動を行って行ったわけですが、その教室を個別訪問すると、同じ研修テーマなのですが、その取り組み方、協議方法、リーダーの進め方等が、全く違うという事に驚き、これは新鮮な驚きでした。その進め方、協議方法によって結論の出方も違って来るわけですが、これは私の会社においても、会議の仕方、進行等について現状がベストと思わず、常により良き方向を探る必要があるのかな等と考えました。

私の方からは以上ですが、次に研修の具体的内容について、三条ローターアクトクラブの赤坂会長に話してもらいます。

### 三条ローターアクトクラブ

会長 赤坂広太郎さん

今回のライラ研修会は新発田RCをホストクラブとして「世界との友絆（きずな）～地域の未来を担う若人の集い～」という研究テーマにて一泊二日で



行われました。参加した人数は約140人で、テーマ通りに日本以外の国の方々が20人程参加していました。私のグループには中国から留学にきている二名の学生がいて、研修で彼らの意見を聞くたび、育った環境が違うとこんなに違うものかと感心することばかりでした。今日は研修の内容と、実際に参加しての感想を皆様に報告したいと思います。

まず一日目の研修は、演題を「労働・奉仕の精神的背景」とした基調講演が行われました。講師は敬和学園大学学長であり、新発田RCのロータリアンでもある鈴木佳秀様から貴重なお話を頂戴しました。鈴木先生は宗教学の博士号もお持ちで、講演の内容は、ロータリークラブが掲げている理念、四つのテストやロータリーの綱領は、キリスト教における礼拝の順序に近いものがある、という所から始まります。奉仕の精神はビジネスの世界でも大きな実りをもたらし、キリスト教ではそれが神の祝福による道であるとされ、最後に改めて四つのテストに立ち帰って講演の締めくくりとされたそうです。非常に興味深い内容ですが、私は残念ながら仕事の都合で研修には二日目から参加しまして、この講演を聞くことができませんでした。今ほど申し上げた内容は同じグループのメンバーから教えてもらったもので、内容が簡潔だったのは私が講演の間に寝ていた訳ではありませんと付け加えさせてください。続いての研修一日目の内容もグループのメンバーに教えてもらった内容をお伝えしています。

そして講演後はグループ内の交流を深めるためにゲーム要素の強い研修を行ったそうです。そしてグループ内で交流を深めた後は一日目で最も研修生の印象に残ったであろう研修が行われます。研修先の敬和学園大学から宿泊先の月岡温泉・ホテル清風苑までの12キロの道のりを徒歩で移動するという内容です。時間にして二時間半以上かかったようで、どのグループに話を聞いても非常に疲れたという感想でした。私はこの研修に体験しないで申し訳なかったなと思いつつも、一日目の最後に行われた懇親会から参加しました。非常にいいところから参加してしまったな、とは思いましたが、私だけ途中参加でありましたので、グループの皆に顔を覚えてもらうべく、周囲の人たち以上に自分を売り込むことが必要になりました。

二時間ほどの懇親会の間にお酒を注いで注がれた結果、どの国であってもお酒によるコミュニケーションは有効なんだな、と身をもって実感できたのが私の一日目の感想になります。

二日目の研修はグループに分かれて議論・討論を中心に行いました。日本について足りないものは何か、もっと良くするためにはどうすればいいのか、といった内容を個人で考え一人一人発表して、グループでまとめたものを最後にグループで競い合うという形式でした。

私のグループには中国の学生が二人いて、この二人と討論しているうちに分かったことですが、この国の方々は日本に対して特別な感情を持つように教育されているんだなと強く感じました。女性の学生が少し面白いことを言っていて、私は日本に来るまでは日本が大嫌いだったけど今では大好きだ、という感想を持っているそうです。私はまずこれを聞いて、どうして日本へ留学する気になったんだろうなと思いましたが、今では大好きになったと彼女が言うのを聞いて、最初にあった嫌悪感は植えつけられた先入観なのかなと思いました。そのあと彼女からは、日本人は教えられていた日本人像と全く違って、真面目で誠実な人ばかりですと言ってもらえました。それが日本人の国民性かと非常に誇らしく思いました。

二日間で様々な研修を体験し、非常に充実した時間を過ごすことができました。特に懇親会において素顔の20代同士で話をした時には、互いに心を開いていれば打ち解けあうことは簡単だと思えました。皮肉なことですが恥ずかしがっていた日本人よりも、交流しようという気持ちでいてくれた留学生の方が打ち解けることができました。

また生まれた国や文化が違って、先入観を植えつけられていても、留学生の誤解と解くことができた例は、まさに百聞は一見に如かずであると感じました。

一つは互いを受け入れることの重要性、一つは百聞は一見に如かず、このことを二日間の研修において私は学ぶことができました。これらを日々の生活において実践していきたいと思えます。ご清聴ありがとうございました。

次週例会 10月20日

職業奉仕月間「職場例会」 於:高儀  
担当:職業奉仕委員長 高橋 司 会員

次々週例会 10月27日

26~27日 一泊移動例会  
「秋の親睦旅行 in 黒部」

